

科目名				授業の種類		授業担当者	
子どもと健康				講義		渡邊 伸	
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修		
1	1	15	8	前期	幼児:選択	保育士:必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「快食、快眠、快便」を子どもにとっても大人にとっても健康の印(しるし)であると考えられることから、「食べたくない」、「眠れない」、「快便でない」自身の経験を振り返り、自分の場合にそうなるときの傾向を把握する。これらの経験を他人と交換することによって、自身のと他人の身体の違いを知り、一人ひとり異なる子どもの健康状態を把握する一助とする。</p>							
<p>[授業全体の内容と概要]</p> <p>自身の記憶をたどり、幼児の頃の漠然とした感覚や雰囲気、好き嫌いを含んだ経験を思い出す。さらに、思い出せる時期以前にも、すでに感じて動く身体として生存していたことを理解する。この時期の自身の健康を見守ってくれた養育者の方から、自身に関して特徴的に感じられたことを話してもらい、授業倫理として可能な範囲で、これらの経験を互いに交換する。ここから、他者とは異なる自身の好き嫌いを含んだ身体感覚を知り、乳幼児の身体感覚を把握できる契機にする。</p>							
<p>[受講上の注意事項]</p> <p>「考える」と「感じる」ことを区別できることが必要と考えます。</p>							
<p>[使用テキスト]</p> <p>適宜プリントを配布します。</p>				<p>[評価基準]</p> <p>授業テーマの理解度60%、授業態度20%、出席20% で評価します。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]							
回	項目			授業内容			
1	授業の全体構想の説明			「私」の健康「感」(健康と感じる感覚)が主要なテーマであることの説明			
2	感じて動く私の身体に気がつく			日常生活を支えている自身の身体感覚に気がつく			
3	乳幼児の感覚世界			乳幼児は運動と感覚によって自身の生活世界(感覚世界)を作る			
4	乳幼児と養育者の関係			乳児と養育者の関係は「間身体的」関係であることの理解			
5	乳幼児の身体と養育者の身体			乳幼児の感覚世界は自身の身体と養育者の身体の分岐以前であることの理解			
6	乳幼児の身体感覚			乳幼児の身体も「脅かすもの」から遠ざかり、「惹きつけるもの」に寄り添うことの理解			
7	乳幼児の健康身体を捉える			養育者は「間身体的感覚」によって乳幼児の異常に気がつく			
8	まとめ			子どもの健康状態を把握するのは養育者に不可欠な感覚能力であることの理解			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
実務教員としての経歴							
実務経験と授業の関連							